



7月度「スカパー！サヨナラ賞」受賞選手発表

セントラル、パシフィック両リーグが制定する月間「スカパー！サヨナラ賞」(協賛:スカパーJSAT株式会社)の7月度受賞選手が決定いたしました。受賞選手には、スカパーJSAT株式会社よりトロフィーと賞金 30 万円が贈られます。

～ セントラル・リーグ 受賞選手 ～
丸 佳浩 (広島東洋カープ)
初受賞

丸選手は、7月26日(金)の対ヤクルト11回戦(マツダスタジアム)、5対5の同点で迎えた延長10回裏二死一、二塁の場面で、中前にサヨナラ打を放ちました。この試合は、両チームが点を取っては取られるシーソーゲームとなり、8回裏には堂林選手の本塁打で一旦は勝ち越したものの、9回表に同点に追い付かれ延長戦へ突入。サヨナラのチャンスに打順が巡ってきた丸選手は、ボールカウント3-2からの6球目を中前にはじき返し、二塁走者・倉選手の快走でホームイン。今季チーム4度目のサヨナラ勝ちを呼び込みました。

～ パシフィック・リーグ 受賞選手 ～
嶋 基宏 (東北楽天ゴールデンイーグルス)
初受賞

嶋選手は、7月26日(金)の対千葉ロッテ11回戦(Kスタ宮城)、2対2の同点で迎えた9回裏、一死満塁の場面で、中前にサヨナラ打を放ちました。この試合は、首位・東北楽天、2位・千葉ロッテが2ゲーム差で迎えた首位攻防3連戦の初戦で、東北楽天は1点を追う9回裏、先頭の銀次選手が二塁打で出塁すると、三四死球で同点。続くチャンスに嶋選手がボールカウント3-2から粘り、11球目を中前にはじき返し逆転サヨナラ勝利。先発・田中投手にとっても開幕からの連勝記録を14に伸ばす貴重な勝利となりました。

月間「スカパー！サヨナラ賞」は、月間を通じて最もインパクトのあるサヨナラ打を放った選手に贈られる賞として昨シーズン制定されました。スカパー！は、2006年シーズンから「プロ野球セ・パ両リーグ公式戦全試合、プレイボールからゲームセットまで放送」(※トップ&リレー、録画放送を含む)を掲げており、「試合終了最後の1球まで真剣勝負をお届けするスカパー！」から多くのファンに、プロ野球中継最大の魅力を伝えることができ、それがプロ野球界発展の一助となると考え、本賞へ協賛しています。また、同様の趣旨のもと2009年シーズンから、レギュラーシーズンを通じて最も劇的なサヨナラ本塁打、またはサヨナラ安打を放った選手に贈られる賞として「スカパー！ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞」を制定しています。



(参考)過去の受賞選手

【月間「スカパー！ サヨナラ賞」】

2012年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3・4月度	中村 紀洋 (横浜DeNAベイスターズ)	田中 賢介 (北海道日本ハムファイターズ)
5月度	森野 将彦 (中日ドラゴンズ)	A.バルディリス (オリックス・バファローズ)
6月度	和田 一浩 (中日ドラゴンズ)	M.ホフパワー (北海道日本ハムファイターズ)
7月度	石原 慶幸 (広島東洋カープ)	柘田 慎太郎 (東北楽天ゴールデンイーグルス)
8月度	阿部 慎之助 (読売ジャイアンツ)	柳田 悠岐 (福岡ソフトバンクホークス)
9月度	新井 良太 (阪神タイガース)	松井 稼頭央 (東北楽天ゴールデンイーグルス)

2013年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3・4月度	福留 孝介 (阪神タイガース)	松田 宣浩 (福岡ソフトバンクホークス)
5月度	畠山 和洋 (東京ヤクルトスワローズ)	浅村 栄斗 (埼玉西武ライオンズ)
6月度	M.マートン (阪神タイガース)	高橋 信二 (オリックス・バファローズ)

【スカパー！ ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞】

受賞年	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
2009年度	亀井 義行 (読売ジャイアンツ)	井口 資仁 (千葉ロッテマリーンズ)
2010年度	天谷 宗一郎 (広島東洋カープ)	小久保 裕紀 (福岡ソフトバンクホークス)
2011年度	長野 久義 (読売ジャイアンツ)	松田 宣浩 (福岡ソフトバンクホークス)
2012年度	和田 一浩 (中日ドラゴンズ)	中田 翔 (北海道日本ハムファイターズ)

以上